

発展探究ワーク 2 第3世代になるために

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

発展探究

発展探究ワーク2:第3世代になるために

【発展②】沖縄戦を語るとしたら？

あなたが沖縄戦を伝えるとしたら、何を一番伝えたいですか？これまでの学習から考えてみましょう。伝える対象は初めて沖縄に行く20年後の高校生です

Step1:4つの要素からの選択:「数字」「証言」「場所」「問い」の中から、自身の伝えたいメッセージに最も適したメインの切り口を1つ選択します。

数字＝被害や戦争の規模を具体的に伝える

証言＝体験した人の思いや記憶を語り継ぐ

場所＝戦跡・ガマ・資料館など、実際の場所やアーカイブから伝える

問い＝感じた疑問や問いを受け手と一緒に考える

Step2:なぜその切り口が沖縄戦を伝えるのに有効だと考えたのでしょうか？整理してみましょう。

・何を一番印象に残してほしいですか・

・どのようなことを考えてほしいですか？

・他の切り口ではなく、なぜこのこの切り口がよいのですか？

Step3:切り口に沿って、事前学習スライド「沖縄戦の基礎知識」を振り返り、400字程度で伝える文章を考えましょう。

・導入: 対象の興味・疑問を引き出す問いや言葉を提示します

「知りたい」「それはどういうこと？」と思うような言葉から始めましょう。

・展開: 中心要素(数字・証言・場所など)を用いた事実や考えを提示します

沖縄で何が起きていたのかという事実を伝えましょう

・まとめ: メインメッセージへの着地と、受け手自身に考えてもらおう振り返り

「あなたはどのように考えますか？」という投げかけをしましょう。

Step4:チェックポイント

・自分が一番伝えたいことが明確になっているか？

・そのメッセージを支える事実は入っているか？

・20年後の高校生が自分自身の問題として考えられる内容になっているか？

第1編 沖縄戦の基礎知識

発展探究ワーク2：第3世代になるために

学習指導案 中学生・高校生対象 25分 A4 2枚

沖縄戦について一番伝えたいことを選び、20年後に初めて沖縄を訪れる高校生へ届ける約400字の文章を書く。事実と人々の経験を踏まえ、受け手が自分の問題として考えられる伝え方を探究する。

1 本時の目標と準備

①数字・証言・場所・問いから、伝えたいことに合う切り口を選ぶ。②選んだ理由を受け手の立場と結びつけて説明する。③根拠を添えて文章を書き、対話やチェックをもとに見直す。

準備：提示スライド、ワークシート、事前学習スライド・映像のメモ、関連資料。映像視聴は別に確保する。学習資料をすぐに見返せるようにし、原典を確認できる証言・数値を用意する。

2 本時の展開 25分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5分	切り口を選び構想する 受け手と目的を確認。伝えたいことを1つ選び、根拠となる資料と理由をメモする。	受け手は20年後、初めて沖縄を訪れる高校生と確認する。4つの切り口から最適なものを1つ選ばせる。 発問例①「一番伝えたいことは何ですか」 発問例②「なぜ、その切り口なら相手に届くと考えましたか」 声かけ「まず伝えたいことを一文でメモし、数字・証言・場所・問いから1つ選びましょう」	狙い：目的と受け手に合う構想を持つ。 評価：メッセージ・切り口・根拠があるか。
4分	4人で構想を共有 一人約1分でメッセージと切り口、その理由を伝える。聞き手は疑問や助言を返す。	一つの正解にそろえず、切り口の違いや受け手への届き方を考えさせる。 発問例①「その数字や証言から、何を考えてほしいですか」 発問例②「初めて学ぶ人には、どんな説明が必要でしょう」 声かけ「一人ずつ切り口と理由を伝え、聞く人は疑問や助言を1つ返しましょう」	狙い：伝え方を他者の視点で見直す。 評価：理由を説明し助言を取り入れているか。
12分	各自で約400字を書く 導入→展開→まとめの順に書く。資料を見返し、事実と自分の考えを区別する。	導入約80字・展開約240字・まとめ約80字を目安に示す。配分は自由。事実自分が伝える意味を加える。 発問例①「何が起きたのかを伝える事実は何ですか」 発問例②「その事実から、何を考えてほしいですか」 声かけ「資料を見返し、導入・展開・まとめの順に自分の言葉で書きましょう」	狙い：根拠とメッセージをつなぎ表現する。 評価：事実を示し、受け手への意味が書かれているか。
4分	読み合い・最終確認 ペアで約1分ずつ読む。残り2分でチェックし、必要な部分を修正する。	印象に残った点と分かりにくい点を返し、メッセージと根拠・受け手のつながりを確認する。 発問例①「一番伝えたいことは、どの部分から伝わりますか」 発問例②「読んだ人が考え続ける問いは残りますか」 声かけ「ペアで読み合い、助言やチェックをもとに直したい部分を1つ選んで修正しましょう」	狙い：受け手を意識して推敲する。 評価：助言やチェックで表現を改善しているか。

指導上の留意点3ポイント

- ① 切り口は伝えるための入口。数字・証言などを選ぶだけでなく、なぜ有効かを考えさせる。
- ② 数値の範囲・証言の文脈を確認する。一人の経験を全住民の経験として扱わない。
- ③ 受け手に特定の感情や結論を強要しない。事実と問いを示し、自分で考えられる文章にする。

到達のイメージ

一番伝えたいことを、選んだ切り口と根拠で支え、未来の高校生が考える入口となる約400字の文章を書く。

未来の高校生へ伝える授業の支援

3 課題と切り口のヒント

問い：あなたが沖縄戦を伝えるとしたら、何を一番伝えたいか。受け手は、20 年後に初めて沖縄を訪れる高校生。4 つの切り口から、伝えたいことに最適な 1 つを選び、その理由を考える。

数字 被害や戦争の規模を具体的に伝える

人数や数量を比べ、規模を実感できるようにする。ヒント：その数字は誰の、いつの、何の数か。数字の背後にどんな暮らしがあったか。発問「大きな数を示すだけでなく、受け手が生活と結びつけて理解するには何を添えますか」

証言 体験した人の思いや記憶を語り継ぐ

言葉と語られた状況を結びつける。ヒント：誰が、どんな経験について語ったか。なぜその言葉を残したいか。発問「その証言のどの部分が、伝えたいことにつながりますか」

場所 戦跡・ガマ・資料館などから伝える

実際の場所やアーカイブを手がかりに、そこで起きたことを具体的に伝える。ヒント：現在の景色からは分らない歴史、地形や避難の条件。発問「初めてその場所を訪れる人に、何を見て、何を考えてほしいですか」

問い 感じた疑問を受け手と一緒に考える

学びから生まれた疑問を入口にする。ヒント：なぜ疑問を持ったか、考えるために必要な事実は何か。発問「問いだけを投げかけず、受け手が考え始められる事実や場面を示せますか」

切り口を選ぶ理由を深める

①何を一番印象に残してほしいか。②どのようなことを考えてほしいか。③他の切り口ではなく、なぜこの切り口なのか。困ったら、同じメッセージを別の切り口で伝える場合と比べてみる。

文章を組み立てるヒント

導入：受け手の関心を引く言葉や問い。『知りたい』『それはどういうこと？』と思える入口をつくる。

展開：選んだ切り口を用い、何が起きたのかという事実や具体的な場面を示す。

まとめ：一番伝えたいことへ着地し、『あなたならどう考えますか』など、考え続ける問いを残す。

4 学級に応じた進め方

プラン	進め方と時間配分 合計 25 分	特徴と支援のポイント
1 協働型	構想 5 分 → グループ共有 4 分 文章化 12 分 → 読み合い・修正 4 分	導入期向け。切り口の理由を対話で深めてから各自で書く。
2 併用型	構想 5 分 → 初稿 12 分 ペア共有 4 分 → 書き直し 4 分	自分の文章を先に持ち、受け手からの反応を加えて見直す。
3 自立型	構想・資料確認 4 分 → 初稿 12 分 根拠と伝わり方を検討 5 分 → 推敲 4 分	探究に慣れた学級向け。初稿を残し、修正の理由も記録する。

どのプランも切り口は 1 つ、最終文章は約 400 字。1 枚目はプラン 1 の例。

5 評価と学習の接続

見取る点：①一番伝えたいことが明確。②切り口を選んだ理由と、それを支える事実がある。③未来の高校生が理解し、自分の問題として考えられる表現になっている。字数の厳密な一致や感情の強さは評価しない。

現地で展示・地図・証言を確かめ、文章を更新する。発信する場合は証言・画像の出典や利用条件を確認する。20 年後の反応は断定せず、受け手を想定して表現を工夫する。

6 資料の扱い

出典：提供スライド「発展探究ワーク 2：第 3 世代になるために」。根拠として用いた数値・証言・場所は資料名や出典を記す。直接引用と自分の要約・考えを区別する。

沖縄平和学習映像教材 第1編 沖縄戦の基礎知識
発展探究ワーク2：第3世代になるために

日付

25分で、20年後に初めて沖縄を訪れる高校生に届ける文章を約400字で書こう。

1 伝えたいことと切り口を選ぼう

問い：沖縄戦について、何を一番伝えたいですか。

切り口を1つ選ぶ：☐ 数字 ☐ 証言 ☐ 場所 ☐ 問い

ヒント：受け手に何を印象に残し、何を考えてほしいか。他の切り口と比べよう。

この切り口を選んだ理由（なぜ伝えるのに有効なのか）

文章に使う事実・場面と資料名（証言は誰の言葉かも確認する）

2 約 400 字の文章を書こう

導入：関心を引く言葉・問い→展開：資料に基づく事実・場面→まとめ：伝えたいことと、受け手が考え続ける問い。
困ったら資料や上のヒントに戻ろう。

A full-page view of a blank sheet of graph paper. The grid consists of thin, light gray horizontal and vertical lines forming small squares across the entire page. There are no margins, text, or other markings present.

20 字×20 行=400 字。句読点も 1 マス。約 400 字を目安にまとめよう。

3 読み合い、確認して直そう

友達からの助言・直したいところ

☐ 一番伝えたいことが明確 ☐ 支える事実がある

☐ 20年後の高校生が自分の問題として考えられる ☐ 根拠と自分の考えを区別した

出典：提示スライド「発展探究ワーク2：第3世代になるために」。